

アイユ

12

2011年 Vol.247

 (財)人権教育啓発推進センター

この静かな海が黒く巨大な津波となって
南三陸の町を襲った



南三陸ホテル観洋 女将・阿部憲子さん(左)と横田洋三・財団法人人権教育啓発推進センター理事長

主な記事



 <人権とーく> 「南三陸の灯を消させまい！」 阿部 憲子さん (南三陸ホテル観洋 女将) …………… 1	
<スポーツ 人とカ> 「未知の扉を開く？」 長田 渚左さん … 6	「人権デーに寄せて」 潘基文・国連事務総長メッセージ … 9
第31回全国中学生人権作文コンテスト入賞作品決定 …… 10	 人権シンポジウム2011 in 東京 …………… 11
 <啓発探訪> 被災地に「明日への息吹き」を感じた … 15	<テムズの岸辺から> 「トルコ地震で邦人NGO男性死亡」 大内 佐紀さん … 21



震災特集 対談

あべ のりこ
阿部 憲子 さん
南三陸ホテル観洋 女将

よこ た よう ぞう
横田 洋三
(財)人権教育啓発推進センター理事長

巨大津波が南三陸の町をのみ込む様子を目のあたりにし、“籠城”を覚悟した。在庫の食材で、宿泊客、駆け込んできた住民を優先にした1週間分の献立を作る。自分たちはおにぎり1個を二人で分けた。約4か月、ざっと600人の被災者を受け入れ、以降もほとんど実費だけで部屋を提供した老舗ホテルの女将は、郷土を愛してやまない。

(この対談は10月17日、宮城県の「南三陸ホテル観洋」にお伺いして行いました)

南三陸の灯を消させまい！ 復興を願い、女将さんは闘う

横田 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。東日本大震災では、南三陸ホテル観洋さんの女将、阿部さんの奮闘ぶりが際立っていたことを、前々から仄聞しておりました。ぜひお話を聞きたい、それも、被災地の現場、このホテルで、と思っております。

阿部 こちらこそ、ありがとうございます。わざわざ、そのために来ていただくとはほんとに恐縮しております。大変、光栄に感じます。

横田 巨大津波を、太平洋を一望するこのロビーで目のあたりにされたそうですね。

阿部 はい。大地が揺れた時、この5階のロビー、まさにここにいました。10階建ての建物自体は頑丈な岩盤の上に造られていましたので、地震の被害は設備などを除くと全くありませんでした。でも、海原が墨色に一変したかと思うと信じられないほどの高さに盛り上がり、襲ってきたんです。ホテルはやや高い位置



阿部 憲子 さん（左）と横田理事長

にあります。それでも1、2階は津波の直撃を受け、自慢の露天風呂がある2階は壊滅状態でした。恐ろしかったのは、その巨大津波が町のみ込んでいったことでした。

横田 はっきり見えたわけですね？

阿部 はい。ここからも見えます。あちらの方向なのですが、町並みがあつという間に津波にのまれてしまいました。ただ祈るしかありませんでした。早く逃げて、逃げて……と心で叫んでいました。

■生かされた常日ごろからの訓練

横田 ご自慢の露天風呂のある1、2

階は普段はにぎわうフロアかと思えます。あの日は金曜日で昼下がりでもあり、お風呂にもお客さんがおられたのではないですか？

阿部 ええ、でも私どもはいつも、少々の揺れでもまずは避難誘導を心がけておりました。しかも今回は、尋常の揺れではありませんでしたから、スタッフ全員が手分けしてすぐ各フロアに向かい、約50人のお客様を、道路を隔てた高



阿部 憲子 さん

台にある避難場所、託児所を併設した女性社員寮なのですが、そこへ誘導いたしました。お風呂をご利用中のお客様にもお声をかけて、全員速やかに移動していただき、どなたにも被害はありませんでした。逃げてこられた住民の方も含め、ざっと300人の方々にそちらへ避難していただいたわけです。本当に、日ごろの訓練通りにできたおかげだと思えます。

横田 見事なご判断ですね。

阿部 あまりにも甚大な被害なので、自分たちが見聞きする範囲で判断するしかありませんでした。ホテルにある在庫の食材を点検し、まずは一週間と、目安を立てました。お客様と住民の方々に優先し、私どもスタッフはおにぎり一個を二人で、笹かまぼこ一枚を二人で……というぐあいに献立を作りました。

横田 お客さんはいつまでおられたのですか？

阿部 1週間後には、皆さまをご無事にお送りだすことができました。

横田 その間、阿部さんご自身や従業員のご家族の動向も不明だったということもあったのでしょうか？

阿部 ええ。従業員にも何人も家族と連絡がとれない者がありましたし、私の方も副社長の主人と小学生の娘の安否がわかりませんでした。4日後に泥だらけになって自転車で戻ってまいりましたが、私ごとには構っておられませんでした。

■どんなことでも、
できません、とは言
えない

横田 何もかもがパニック状態の時、お客さん



左・横田理事長

に加えて住民の方々の安心、安全を何よりも優先された。さぞかし、さまざまなニーズを機敏にこなさなければいけなかったのでしょうか。

阿部 今回つくづく思いましたのは、私どもの仕事がいかに常日ごろから、柔軟な考え方を求められている職業であったか、ということでした。今の時代、お客さまは十人十色ではなく、一人十色なんです。それだけ私どもはいつもさまざまなニーズに向き合っていたわけで、突然、予想もしないことが起きて、すぐになんとかできるよう訓練はしておりました。

横田 臨機応変は当たり前でいらつしやった？

阿部 ええ、どんなことでも、できません、とは言えないとわきまえておりました。いろいろなクエストがあった時、それをどう叶えて差し上げられるかを常に意識していました。危機

意識も頭から離れることはありませんでしたので、混乱の中でも立ち往生することとはあまりなかったと思います。それでもやはり、今回だけは、毎日毎日が試されていると感じました。

横田 女将になられてどのくらいですか？

阿部 短大を出てすぐ、

20歳からこの仕事を続けております。短大はホテル観光学科でしたが、今、改めて思いますに、やはり経験は大事だ、ということですね。知識があっても経験が積み重ねられていないと、活かされてこないような気がします。

横田 おっしゃる通りです。大学で経営を学ぶということは、結局、利益をどうやったら生みだせるかということに落ち着かざるを得ないと思います。でも、ホテル観洋さんはまずお客様ありきで、おもてなしをどうするかに重点が置かれ、利益は後からついてくるものといったお考えでやってこられたような気がします。そこへ今回は、地域、そして住民の方々ありき、も加えられた。

阿部 ここまでやってきて一番感じているのは、災害時には、私たちのように衣食住を提供する職業にも役目があるのだ、ということでした。これは日ごとに確信するようになりました。こういった施設の重要性なども、これからの教訓の一つにしていただければうれしいですね。

横田 ホテル観洋さんの社会的責任論をお聞きしている感じがします。

阿部 とは申しませんが、私どもが民間であるということが、どうしても優先順位から外れがちな傾向にありました。



長く営まれてきた社会

のしきたり

でのことと

は思います

が、この壁

をどう越え

ていくかが

今後の課題

かと感じて

います。さ

まざまな

ものが失

われた中

で、もう

人の知恵

しかない

と思

いながら

やって

いました

。四六時

中、ス

タッフと

意見を

交わしな

がら何が

ベター

かを考え

続けまし

た。

■避難されている方に

踏ん張っていただきたい

横田 避難された方々はどのくらい、ここにおられたのですか？

阿部 4か月間、約600人の方々がおいでになりました。県ともご相談して、1泊3食付きで50000円、いただいております。

横田 復旧工事関係者やボランティアなどにも部屋を提供されたのでし

うのは、相当の信念がないとできないことと思います。

阿部 南三陸を出て行かれる住民の方々が、あまりにも多かつたものですが、とどまっていたりするために、町民の避難所としてお使いいただきたいと名乗りを上げたわけです。流出に歯止めをかけないとこの郷土が消えてしまいかねない、と必死の思いでした。とくにこれからの復興、町づくりを考えると、子どもさんたちに残ってもらわないことには将来の担い手がなくなると思い、学生さんがおられる家庭の方々、そして会社や工場、お店の再開を願って、雇用の場を作っていたり経営者の方々にとお願いしました。たとえば、お店が開いてくれなければ日常生活が戻りませんので。

横田 そこまでお考えだったのですか。

阿部 ボランティアの学生さんをお願いして、寺子屋も始めました。

横田 いわば学習塾ですか？それはまたどうですか？

阿部 住民の方のお世話が始まってから、若いお母さん方が、子どもの教育が心配だとおっしゃるんです。それでお部屋を提供して、小中学生を対象に始めました。途中から、大学受験を控えている高校生にも来てもらえるように日数を増やしました。寺子屋は今でも続けています。

横田理事長

横田 至れり尽くせりですね。

阿部 でも、さまざまな個別事情が絡んで、地域の人間関係が難しくなっちゃったと感じました。それで、いくらかでも人間関係の絆のお手伝いになればと、支援して下さる方々のコンサートとかお芝居を時々ホテルで開き、地域の方々に来ていただくようにしています。コミュニティがばらばらになっちゃったりして傷つき苦しんでおられる方々が、少しでも気分転換になればと思います。



横田 まる

で、町の暮らしのアフターケアまでおやりになっちゃってる感じですよ。

阿部 今ここで、避難されている方々に踏ん張ってもらわないと、10年後、町の在りようが大きく違ってくると思っていました。

■水がないトイレがない

食べ物がなければ人権問題

横田 ホテルのライフラインを確保するのも大変だったのでしょうか？

阿部 水には苦労しました。飲み水は、ホテルのタンクに残された分を細々とやりくりしていましたが、お手洗いとお風呂

はどのようにもなりません。やはり民間の壁があつたんですね。飲み水でなくてもいいから仮通水してただけませんか、とお願ひしたんですが、どうしても許可してもらえませんでした。

横田 タンクの水にしても、みんなの命の水ですね。

阿部 ええ、私たちスタッフは顔を洗うのも我慢しました。2週間後くらいに、やっと、給水車が来てくれました。通常ならホテル全体で1日300トン必要なのですが20トン止まりでした。早速お風呂を沸かし、被災者、近所の方々に入っていたいただきました。今日はこの地区、明日は隣りの方々、というふうに分けさせてもらいましたが、皆さん、非常に喜んでくださった。その時に感じたんです。私たちにも役割がある、この水の量さえ増えれば、私たちのホテルも十分避難所としてお役にたてる、と。お願ひにお願ひを重ね、どうにか80トンにまで増やすことができました。

横田 災害直後ならいざ知らず、1週間経ち2週間経って、安全な飲み水が十分でない、衛生的なトイレが使えない、栄養のある食べ物が無いなどというのは、これはもう大きな人権問題と云っていいことです。国や自治体の対応はいかに遅く、やれ手続きがどうの規則がどうのと、目の前にいる困っている人のことを真っ先に考えなければならぬの

に、杓子定規の対応が目立ちました。さぞかし阿部さんもご苦労されたのではないかと、十分想像されます。

阿部 私たちは民間会社ですから、感染症や食中毒を起こしたら、それだけでアウトです。緊張感はずっと続いていました。今、振り返ってみますと、よくやり通せたなと思います。民間会社も、災害の時は何ができるのか、常に考えていかななくてはならないと強く思います。しかし、社会慣習的ながらみをどうやって乗り越えていったらいいのか、ですね。

横田 私も調査をしたことがあります。地域社会では本当に商店がなければ住む人は大変なんです。一方、商店や会社があれば雇用が生まれますが、そのためには人々に住んでもらわなければならない。地域の復興も、こうしたことが一体化されて進んでいってくれないとなかなか進みません。やはり行政が、スピード感を持ってみんなの意見を聞き、これこれこういうふうに興じていきます、ときちつと打ち出す必要がありますね。

■大自然と向き合って

生きていかなければ

阿部 震災後、若い人がほとんど都市部に出て行く流れができてしまいました。このままでは大変なことになる、少

しでも若い人の働く姿をつくって、みんなに見てもらわなくてはと思いました。震災から1か月ちよつと経って、若いスタッフによる小さな「食事処」をオープンしたんです。紙コップ、紙皿で、メニューも限定でしたが、始めました。感激したのが、入社2年目の若い男性スタッフが、「営業中！」という大きな看板を自分で作り、自分で掲げてホテル前の道路際に立って宣伝してくれたことでした。

横田 自ら進んでですか？

阿部 そうです。自分のアイデアでやってくれました。嬉しかったですね。

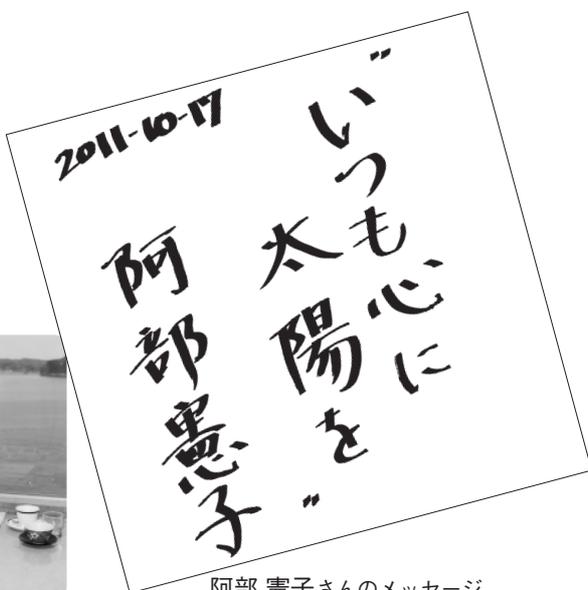
横田 それもこれも、阿部さんが陣頭指揮でおやりになったたまものではない。しかも、一つひとつ、それぞれにちゃんと哲学があつてのこと。お聞きしていて、これぞ、日本の企業の間で真剣に語られ始めている企業の社会的責任、CSRを率先実行しておられると感じました。CSRは今のところ、理論ばかりが先行してしまっています。でも、ひとりでいえば、食べ物がなくて困っている目の前の人、お風呂にずっと入っていない人に何ができるか、という発想こそ原点なんです。阿部さんはもう、巧まざるして実践されている。その情熱の根源は、ご自分で何だつたと思われませんか？

阿部 使命感でしょうか。あとは、負けてはいられないといった気持ち、闘い

だったのかもしれませんが。次々に問題が起きてきて、いったい何が物事をこんなに難しくしているのだ、と闘ってきたのかもかもしれません。

横田 不屈の信念もお見事ですが、スタッフの方々もよくついてきてくれましたね。

阿部 ええ、本当に感謝しています。残念ながら被災によるさまざまな事情が



阿部 憲子さんのメッセージ

あつて、50人ほど辞めてしまいましたが……。

横田 阿部さんをはじめ、被災地の皆さんが新しい文明へ向かって進

み始めていらっしゃるのではないのでしょうか。



阿部 そういう感じがしております。忘れてならないのが、この三陸の地だからこそ、大自然と向き合っていくことか

と思います。私たちは、海からも恩恵を受けながら暮らしてきて、その海から甚大な被害を受けました。でも、大自然と向き合ってどう生きていくかは、私たちの考え方次第だと思えます。そういった体験を語り継ぐことも私たちの使命と考えていますので、できれば、日本中から多くの方々に現地に來ていただきたいです。

横田 まだまだ、お聞きしたいことが尽きませんが、この辺で終わらせていただきます。震災直後から十分にお休みになっておられない数か月かと思えます。どうぞ、ご自愛のうえ、これからも南三陸のため、いや、東北のため、日本のためにご健闘いただきたいと思えます。本日はありがとうございます。

阿部 こちらこそ、貴重な機会を設けていただきまして本当にありがとうございます。

（司会・アイユ編集委員）

阿部 憲子さん

営店として、お客様を守り抜く。阿部憲子さんは、25歳から、東北の被災地で避難生活を営む。水産業と観光業を営む株式会社阿部観光の創業家。25歳から、東北の被災地で避難生活を営む。

スポーツ

人とカ
と

秋のテニス界は大騒ぎだった。

スイス室内大会5日目、世界ランキング32にしこりけい位の錦織圭選手が、1位のノバク・ジョコビッチ選手（セルビア）に逆転勝ちを収めたのだ。

第1セットを2-6で落としたものの、第2セットを7-6、第3セットを6-0として、錦織選手は世界中から注目された。

ジョコビッチは、今年の全豪、ウィンブルドン、全米を制した選手である。ちなみに日本の男子で、過去に世界ランキング1位を破った選手はいない。

しかし、思い切りのよい闘いぶりを見せた錦織選手だったのに、翌日は、おとなしい猫のように敗れた。対戦相手は元世界王者で、ランキング4位のロジャー・フェデラー選手（スイス）だった。

もちろんフェデラーも強敵だが、錦織はフェデラーのサービスエースを一度もブレイクできなかった。1-6、3-6での完敗は目に余る内容だった。

前日のジョコビッチ戦の疲労も残っていたかもしれないが、たった一日でここまで異なる試合内容になるとは、誰が想像しただろう。

テニス、それもシングルの試合は互いの圧力のかけあいだ。選手はゲーム中に、虎への変貌も見せるが、かたや猫になってしまう

て尻尾を巻く様子も、時にうかがえる。錦織選手の落差は著しい。

ちなみに、今年初めの彼の世界ランキングは83位だった。それがぐんぐん上昇し、ジョコビッチ戦に勝つと11月7日付けで、日本男子最高の24位にまでにアップした。

年頭のインタビューで彼は、「目標50位以内」と言っていた。大幅な修正が必要となってから、「20位以内」と変更したのだが、24位となっている今、来季にはさらなる目標設定が必要だと思われる。

テニスの場合、身長差は腕の長さの差に結び付く。錦織選手は身長178センチ、自分より上位ランクの選手より10センチも低い。かなり不利な感じがする。

一方で彼は、別にこんな数字にも特徴がある。この1年で最終セットにもつれ込んでの勝率である。フェデラー選手が36%なのに対し、錦織選手は78%。圧倒的に粘り強いのだ。

錦織選手が自分の持ち味である粘り強さをもっと発揮できれば、さらなる上位進出の可能性が高い。来季、もっとも期待される選手だ。

最終回

「

未

知

の

扉

を

開

く

？

」

長田 渚左



おさだ・なぎささん
ノンフィクション作家、スポーツ総合誌「スポーツゴジラ」編集長。早稲田大学講師、淑徳大学客員教授。NHK ラジオビタミンスポーツ担当、RKB ラジオスタミナラジオスポーツ担当

同和問題の無理解に

つけ込んだ不当行為

東京でえせ同和行為対策セミナー

「平成23年度えせ同和行為対策セミナー・東京会場」が10月31日、ニッショーホールで開かれ、企業関係者を中心に約630人が参加した（経済産業省中小企業庁、財団法人人権教育啓発推進センター主催）。えせ同和行為に関する啓発ビデオ（*）の上映、2人の講師による講演が行われた。

ジャーナリストで元西日本新聞編集局長の稲積謙次郎さんは、「正体見たり枯れ尾花」えせ同和行為克服のカギは何か」と題して講演した。「えせ同和行為は、『同和は悪い』という誤った認識、偏見につけ込んでくる。えせ同和行為は、同和問題の理解を妨げる行為であることを、きちっと認識して対応してほしい」と訴えた。また、同和問題の理解への一環として、部落解放運動についても触れ、「自らが自らの手で立ち上がるという水平社宣言の原点復帰への動き」についても述べた。



稲積さん

一方、弁護士の増江亜佐緒さん（東京弁護士会）の講演は、「えせ同和行為の具体的事例と対応策」について。最も被害が多い凶書購入の要求事例を基に、すでに凶書が送りつけられてしまっ



増江さん

た場合、相手方が事業所に面談にきてしまった場合、街頭宣伝車を回されてしまった場合、それぞれについて、具体的な対応策を説明した。「えせ同和行為は、不当要求行為であるから、毅然とした態度で拒否すること」を基本に、困ったときには法務局、弁護士、全国暴力追放運動推進センターに相談してほしいと呼びかけた。

参加者からは、「企業としては、同和問題を真に理解して対応することが大切だとわかった」「実務に役立つ詳細な説明を聞けてよかった」などの声が寄せられた。

*上映DVD「セクハラ・パワハラ・えせ同和行為ーあなたの職場は大丈夫？」（法務省、当センター制作）は、セクハラ（約15分）、パワハラ（約14分）、えせ同和行為（約18分）の3部構成。当センター人権ライブラリー（☎03-5777-11919）で貸出しています。

また、このセミナーで配布された①「えせ同和行為対応の手引」（法務省人権擁護局）は、法務省



のホームページ
(<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken86.html>) からダウンロード可、②

えせ同和行為対策のリーフレット「みんなでNO!」（右）（経済産業省中小企業庁委託で当センター制作）は、当センター（☎03-5777-11918）で無料で差し上げています。ご利用ください。

アイヌの文化に親しむ

フェスティバル

東京で開催

音楽や舞踊、口承文芸、木彫、刺繍などアイヌの文化に広く親しんでもらおうと、11月3日、東京国際フォーラムで「アイヌ文化フェスティバル」が開かれた（財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構主催）。

「ありのままの私たちを見てほしい」という意味のアイヌ語、「アンコラチメノコウタラ」が呼び名のグループが、踊り手や歌い手の歌と手拍子のもと、動物の動きを表した踊りなどを披露すれば、昨年のアイヌ語弁論大会の口承文芸部門で最優秀賞を受賞した堀多栄子さんが、「イヌンケ」といわれる子守唄を歌った。

また、秋辺日出男さん（阿寒アイヌ工芸協同組

合専務理事）の「アイヌ政策実現に向けて」と題する講演も行われた。秋辺さんは、内閣官房長官を座長とする「アイヌ政策推進会議」の「北海道外アイヌの生活実態調査」について触れ、「北海道外においてもアイヌであることを隠さないといかない現実があるということが、全国調査の数字に表れている」と述べた。

秋辺さんは、彫刻作品の制作やアイヌの叙事詩を基にした劇の演出を手がけ、さらにアイヌ詞曲



舞踊団のダンサー・

ボーカリストでもあ

る。それだけにアイ

ヌ文化への造詣も深

く、「文化は、民族

が民族たるゆえんを

証明するものだと

思っている。アイヌ

の人が抵抗感なく、

ごく普通に、素直に、

アイヌらしく生きられるように、そしてそれを日

本 nationwide が普通の存在として認められるように

なっしてほしい」と訴えた。

アイヌ民族に関しては、2007年、国連総会

で、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採

択され、翌年には、衆参両院で「アイヌ民族を先

住民族とすることを求める決議」が採択された。

「アイヌ政策推進会議」では、「北海道外アイヌの

生活実態調査」の実施や、今後のアイヌ政策推進

の中心的な拠点となる「民族共生の象徴となる空

間」の整備などが行われている。

継続的な支えが

犯罪被害者を力づける

入江杏さんが芝大門人権講座

犯罪被害者の人権をテーマとする芝大門人権講座が、10月26日、当センター人権ライブラリーの多目的スペースで行われた。講師は、2000（平成12）年12月31日に起きた「世田谷事件」で妹一家4人を亡くした入江杏さん。「悼む心繋がるいのち〜犯罪被害の現場から〜」と題して講演、事件当日の様子、現在に至るまでの話、グリーンケア（悲嘆回復）活動などについて話した。また、自身の著作絵本「ずっとつながってるよ」の読み語りも披露した。

事件から間もなく11年、深い悲しみからの再生について、入江さんは、「悲嘆からの回復を信じて、悲しみがやがて生きる力に変わる日がくると

いうことを伝えたい。

あの経験を乗り越え

てきたからこそ、今

の私がある、と今で

は思える」と述べた。

自身の体験から、「社

会での多くの出会いを通して、人間関係を広げていくことが回復につながる」として、過度に慮ること、犯罪被害者やその遺族、家族を社会から遮断することにならないよう、「疎外感、孤立感を感じただけ感じないように声かけをしてほしい」と訴えた。

参加者からの「どのような支えが望まれるか？」という質問に対しては、「継続的に行われるサポートが大切だと思う。支えが途中で途絶えてしまうと、辛い立場にある人は、捨てられたと感じてしまう。個人、行政も含めて、継続できる支えをすること、支えを継続できるように工夫をすることを心がけてほしい」と述べた。

入江さんは、例年

12月、「ミシユカの森」と名付ける追悼の会を開いている。会場に設けられる「思いの樹」には、さまざまな人の思いを綴ったカードが飾られるとい

い、入江さんは、「共に思いを馳せること、一人でも多くの人に関心を持ってもらうことが、社会全体を変えていく力になる」と話した。



「ミルカ・ミルカ」は、ペルーの先住民族の言葉・ケチュア語で「さまざまな色やもの」の意味です。人権に関するさまざまな情報を幅広く紹介していきます。

人権デーに寄せて

—^{バンギムン}潘基文国連事務総長メッセージ—

人権は私たち一人ひとりに例外なく備わっています。しかし、私たちが人権を知り、その尊重を求め、それを行使する自分たちの、そして他の人々の権利を擁護していかなければ、人権は単に、数十年前に作られた文書に盛り込まれた言葉で終わってしまいます。

だからこそ、私たちは「人権デー」を迎えるにあたり、世界人権宣言が1948年に採択されたということを知り、祝うだけでなく、現在も変わることのないその重要性も認識するのです。

人権の重要性は今年、幾度となく強調されました。人々は世界中で、公正、尊厳、平等、参加という、世界人権宣言に謳われた権利を求めて立ち上がったのです。



©UN Photo/Paulo Filgueiras

こうした平和的デモの参加者たちの多くは、暴力やさらなる弾圧にもめげず、目的を貫きました。まだ闘争が続いている国もある一方で、国民の意志が大幅な譲歩や独裁政権の打倒につながった国もあります。

正当な要求の実現を求めた人々は、多くがソーシャル・メディアでつながっていました。圧政的な政府が情報の流れを完全に統制できる時代は終わったのです。政府は従来、集会や表現の自由権を尊重するという義務を負っていますが、その義務には現在、批判や公の議論を妨げる手段として、インターネットや各種ソーシャル・メディアへのアクセスを遮断しないことも含まれています。

依然として、私たちの世界には抑圧がはびこり、不処罰がまん延し、あまりにも多くの人々がその権利を踏みにじられています。

それでも、人権にとって特別な年となった今年2011年を振り返れば、私たちは多くの成果に勇気づけられるはずです。新たな民主化への動きが始まり、戦争犯罪や人道に対する罪の責任を確実に問うための新たな措置が講じられたほか、人権自体に対する認識も新たに広がっているからです。

今後の課題を見据えるにあたり、人権活動家の実例と、時代を超えた世界人権宣言の力から、多くを学んでいこうではありませんか。そして、どの文化にも、どの人にも当てはまる理想と願望を守っていけるよう、全力を尽くそうではありませんか。

※12月10日の人権デーにちなみ、国連広報センターを通じて寄せられたメッセージです。
同センターの日本語訳です。



第31回

全国中学生人権作文コンテスト

中央大会

入賞作品決定



人権イメージキャラクター
人KENまもる君 人KENあゆみちゃん



法務省と全国人権擁護委員連合会が主催する第31回全国中学生人権作文コンテストの入賞作品が決まった（一覧は下段参照）。作品は、6,682校、89万3,258人から寄せられ、内容は「子ども」に関するものが33.7%と最も多く、次いで「戦争・平和」、「障害のある人」に関するものだった。

入賞作品は、来年2月ころ、「作文集」としてまとめられ、全国の法務局・地方法務局に配布される予定。主な入賞作品は、本誌でも掲載する。

人権作文コンテストは、人権尊重の重要性についての理解を深め、豊かな人権感覚を身につけてもらうことを目的に、1981（昭和56）年から毎年実施されている。

主な入賞作品

内閣総理大臣賞

「絆」……………福岡県・九州朝鮮中高級学校中級部三年 崔 玄祺

法務大臣賞

障がい者の私にできること……………岐阜県・岐阜県立岐阜聾学校中学部三年 河合 茉奈

文部科学大臣奨励賞

温かさを分け合って……………福島県・南相馬市立原町第二中学校三年 宮原 理為智

法務副大臣賞

祖母との「会話」から学ぶこと……………東京都・昭島市立瑞雲中学校二年 君塚 仁美

法務大臣政務官賞

「はじめのスパイラル」……………山口県・周南市立秋月中学校三年 花田 祥代

全国人権擁護委員連合会会長賞

「考ハンセン病」……………沖縄県・名護市立羽地中学校三年 宇良 樹希

社団法人日本新聞協会会長賞

支えあつて生きる……………埼玉県・本庄市立本庄南中学校一年 林 凌平

日本放送協会会長賞

生きるということ……………鳥根県・浜田市立浜田東中学校二年 山田 明香

法務事務次官賞（3編）

「一緒に生きる大切さ」を学んで……………栃木県・白鷗大学足利中学校三年 森 彩花
 祖母から学ぶ……………宮城県・蔵王町立遠刈田中学校一年 大石 瑞穂
 水泳が僕に教えてくれたこと……………秋田県・大館市立成章中学校三年 奈良 光樹

*敬称略

人権シンポジウム2011 in 東京

震災と人権 ～私たちに出来ること～

パネリスト

くろだ ゆうこ
黒田 裕子さん

NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長

D a n i e l K a h l
ダニエル・カールさん

タレント、山形弁研究家

わだ こうじ
和田 耕治さん

北里大学医学部公衆衛生学講師、医学博士、医師、労働衛生コンサルタント（保健衛生）、産業保健修士、日本産業衛生学会指導医、日本体育協会認定スポーツ医

よこた ようぞう
横田 洋三

法務省特別顧問、日本国際連合学会理事長、国際労働機関（ILO）条約勧告適用専門家委員会委員長、財団法人人権教育啓発推進センター理事長、元・国連人権促進保護小委員会委員

コーディネーター

たなか まさと
田中 正人

財団法人人権教育啓発推進センター理事、元読売新聞東京本社編集局次長

紙芝居実演

かな やくにひこ
金谷 邦彦さん

紙芝居師、元東京都文京区学校職員

主催：法務省、財団法人人権教育啓発推進センター
後援：読売新聞社

法務省と当センターは、10月23日、東京・新橋のヤクルトホールで、共催で人権シンポジウムを開催、さる3月11日に発生した東日本大震災を人権の視点から議論しました。みんなでつながろう、の思いを込めて「私たちに出来ること」を話し合い、金谷邦彦さんに被災地の女子中学生手作りの紙芝居を実演してもらいました。各パネリストのメッセージ（基調報告）を掲載します（いずれも要旨を編集しました）。

田中 未曾有の大震災で、昨日10月22日現在、亡くなられた方が1万5828人、行方がわからない方が3760人もおられます。多くの方々の人生、歴史が失われ、人間が人間らしく生きられることが破壊されました。本日のシンポジウムはまず、この悲惨な震災を描いた手作りの紙芝居で始めたいと思います。紙芝居は、決して負けない頑張りをも描いたもので、宮城県石巻市の女子中学生たちの作品です。現地で中学生たちから紙芝居を託された金谷さんに演じてもらいます。

金谷 被災者に紙芝居を観てもらおうと、4月下旬、レンタカーで石巻へ



りの中学生たち10人前後と出会いました。「私たちも紙芝居を作れる」というので、厚手の画用紙12枚、クレヨンなどを、「明日の夕方、またここへ来るから、できていたら持つてきて」と言っ

て渡しました。大半が避難所暮らしの中学生だけに、正直、半信半疑でした。ところが翌日、彼女たちが待ちかまえていて、「はい、これ」と、こともなげに渡してくれたのです。紙を1枚も無

行き、避難所を回りました。ある朝、女子バレー部の朝の練習帰

駄にせず、絵も台詞もいねいに描かれています。

驚きと感激で、胸が熱くなりました。避難所の体育館の調理場で、11人の女子中学生が一晩で描き上げたというのです。自分たちの思いを、私にはなく、全国の人々に伝えたいという強い願いの表れと感じました。紙芝居をできるだけ多く実演し、子どもたちの気持ちを伝え続けていこうと思っ

紙芝居実演

金谷さんが、壇上のスクリーンに映される紙芝居に合わせて語りを演じた。

* * *



大津波で人、家が流され、町が炎につつまれた様子。避難所暮らしに電気、水道が復旧した喜び。笑顔の子どもたちが支援に感謝し、復興を誓う「助け合い、一つになることや、食べ物の大切さを、地震を経験して学びました。みんなが笑顔になれるよう、これから

も遠くから応援しててください。本当にありがとうございます。これからものがんばります」の言葉などが語られた。

田中 金谷さん、ありがとうございます。あれ以来、何度か現地を訪ね、子どもたちと家族のような付き合いの金谷さんの実演、十分に子どもたちの率直な気持ちを伝えてもらったと思います（拍手）

では、パネルディスカッションに移ります。最初にダニエルさん。「オラは、一東北人」と、レンタルの2トントラ

ックに支援物資を積めるだけ積み、ご自分で運転して被災地へ届けられている。もう、20回近くになるとか。すべてポケットマネーでのボランティア活動で、頭が下がります。



ダニエル どうも皆さん。大震災後の3週間ほど、外国人には何がどうなっているかわからないだろう

うなど、停電、避難所、交通網、通信網などの情報を、真夜中まで英語のツイッターで流しました。本日は、発当日にでも現地に行きたかったんですが、女房に反対されました。今は、あなたが行って邪魔になるだけ、行くな、と。ダニエルにできる一番いいことは、今やっていること、情報を英語で流すこと、と言われて思い直したわけです。

道路がなんとか通れるようになってから、物資をトラックに乗せ、岩手の山田町へ向かいました。山田町は、内陸から入る道が一本もなく、支援物資があんまり届いていないだろうと判断したからです。ちょうど1か月くらい経ったころ、現地のおじいちゃん、おばあちゃんたちが、ずっとおにぎりしか食べていないことがわかり、びつ

りしました。「何が食べてえ？」と聞くのと、野菜と納豆が食べてえ、と言う。でも、生ものの野菜も納豆も手に入らない。悔しかったですね。あるいは、漁師さんが、「魚が食べてえ」と言ったのにもびっくりしました。避難所から海を眺めながら話したんですが、海にがれきが残っていて、1か月余、一度も海に出ていなかったんですね。その漁師さんは津波で奥さんも流され、家も失った。すべてなくなり、「なんでおらだけが残ったんだか。でも、踏ん張るよ」と言っていました。

忘れてなんねえのが、いまだに続いている大げさな報道や誤報です。外国のメディアでセンセーショナルに流れています。風評被害が起きないように、正しい情報を的確に流そうと思っています。誤報というのをもまた、大きな人権侵害ですから。まだまだ私の仕事は終わっていません。これからも続けます。

田中 ありがとうございます。次に和田さんですが、先ほど控室で、「公衆衛生ってなんですか？」と素人丸出しの質問をしました。「医療は一人ひとりの健康。公衆衛生はみんなの健康」と実にわかりやすく教えてもらいました。被災地の安心安全のためにも欠かせない分野だ、と感じました。

和田 みなさま、こんにちは。公衆



衛生学的側面からの医療活動として現地に行かせてもらいました。

また、がれきの片付けに関する粉じん対策や原発事故対応の支援などでも何度か現地に伺いました。

災害が起きますと、直後は恐怖や不安などで被災者の気持ちは落ち込みます。でも、ちよつと時間が経つと、みなで助け合おうという機運が一時的に高まります。英雄期とかハネムーン期といわれる状況です。しかし、ある程度の期間が経つと見通しの厳しさや仕事を失うなどといった喪失感などで多くの人の気持ちが沈み、幻滅期を迎えます。東日本大震災についてはまさに今が幻滅期です。この幻滅期の状況を、いかに早く改善し、復興へ向かうようにしていったらいいか。我々医療従事者にとっても、社会全体にとっても課題になるでしょう。

今、大きな問題の一つとして、経済問題、とくに雇用の確保があげられています。地域の人々の健康と経済は、実は重要な関係にあります。健康には、生活習慣だけではなく社会のありよう、市民生活のネットワークとの絡み、そ

して、仕事があるかないかといったさまざまな事柄が、関連します。人権の大きな要素でもある健康を守るということを考えて時、経済的側面から支えられるよう努力するというのは非常に理に適っています。ぜひ、企業の方々には、健全な雇用を現地で創出していただくと思います。

仮設住宅にお住まいの方が多くなりましたが、地域コミュニティができていくかどうかも重要です。人々のつながり、互いに助けあう機能は不可欠です。家を流され、家族を失い、仕事がなくなった方々を社会がどう支援できるかは、みんなの健康を守る上でも、非常に大事になっていくでしょう。

田中 幻滅期が今ごろということですが、その後をやってくるはずの復興期、再興期ですか、それと重なるということはないのでしょうか？

和田 1年くらい経つと、また、かえってさまざまなことが思い出され、気持ちが沈んでしまう方が増えるともいわれています。どうやって希望を持つてもらい、健康を守っていくかが重要であり、継続した支援を皆で行うことができればと考えます。

田中 ありがとうございます。次に黒田さんをお願いします。神戸からレンタカーを乗り継ぎ、なんと大震災

の翌日にはもう、被災地に入って災害ボランティア活動を始められました。以来、今も2、3週間に一回は数日間被災地に滞在し、被災者に寄り添う活動をしておられます。



黒田 阪神・淡路大震災のとき、私も被災しました。あの日あの時の、「助けて！」の叫び声は今も耳

に残っています。宝塚市立病院の看護師でしたが、半年後に辞めて災害ボランティアになりました。命と暮らしを原点に活動しています。生きていくというのは、人間が地域の中で暮らしていること、を忘れてはいけないからです。

東日本大震災が起き、すぐに行かない、と心が動きました。今も、24時間体制で支援活動しています。リーダーを置き、看護師と一般のボランティア、ヘルパーさんで、仮設住宅地域などでの孤独死の予防を大きな目的にしています。命を守るといふことは、自殺者、閉じこもりを出さない、うつ病を防ぐということです。お茶会や見守り活動、話を聞いて元気を出してもらおう。ピアカウンセリングなどを行っています。お茶会にも出てこれない人が

いれば、どうすれば生き切る力、自分で次のことを考える力が出てくるのか、を考えます。

せっかく今ここにある命を、むざむざ失ってはいけない、と活動していますが、何でもかんでもして差し上げることがいいとは限りません。やはり、自立と共生です。ただ見守るだけでなく、その人がどんな状況なのか、表情、立ち居振る舞いなどを見極めたうえで、その人の人権、価値観、尊厳を守ることを大切に考えています。

よく、心のケアといわれますが、眠れないからといって薬だけをお出ししてもいけないと思っています。やはり、相手の方の気持ちを少しでもわかって、とする自分が寄り添えること。それが、その方がちよつと立ち止まって、共に生き切ってくださいするための一番のことではないかと思っています。17年間やってきて、そう感じております。

田中 気仙沼の避難所で、黒田さんが寄り添っておられた一家と知り合いました。先日も仮設住宅を訪ね、お会いしてきたのですが、今も、黒田さんを慕っておられました。寄り添うということは、相手の尊厳を大切にして気持ちを共有することなんだ、と感じさせられています。最後になりましたが、横田さん、お待たせいたしました。

横田 さまざまな意味で、人権が奪



われ、侵害されている大震災なのに、救援としては決して十分なも

のではないと、感じています。

行政のきまりや役所のマニュアルの制約もあるのですが、なんと人権の視点に欠けたやり方だろうと思わざるを得ません。目の前に人権侵害があったら、まず、その人を救う、何ができるかを考える、それが人権の視点です。国も自治体も、間違いなく一先懸命にやってくれていると思います。しかし、ちよつと人権の視点があれば、その対応にもっと温かい、血の通ったものが出てくるのではないのでしょうか。

災害が起きると、誰しも被災者への同情、何かしたい気持ちが出てきます。その何かしようというときの、すべきこと、とは人道的支援なのです。人権の視点というのはそれだけでは足りません。今すぐ、直ちに人権侵害の状況をなくすための努力をしなければいけないのです。

食料品、水などは人が生きていくうえで、絶対に欠かせない大事なものです。でも、それらを提供した、だからもういいではなく、その上で、人間の

生きがい、人の心のあり方にまで行き

届いた活動をしていただきたい。それが人権の視点に立った支援活動ということ。行政が、そして私たちが、人権をどういうふうに捉えて対応できるかを、ともに考えていかなければならないと思います。



田中 今年の憲法記念日、5月3日

に気づいたことがありました。記憶にないくらい、多くのメディア

が日本国憲法の基本的人権について、キャンペーンで大きく取り上げていたことです。今回の大震災が、いかに人権の大きなテーマでもあるかということとを物語っていたような気がしました。

横田 ともしれば人権を語る時、健康に対する権利、教育を受ける権利、幸福を追求する権利、最低限度の文化的生活を営む権利、安全な飲み水に対する権利といった社会権は、後回しにされがちでした。今回、こういった人権こそ守られなくてはいけないと強く認識されたということかと思っています。

田中 パネリストのみなさん、金谷さん、ありがとうございます。これでパネルディスカッションを終わらせていただきます。

東日本大震災特集

啓発探訪

気仙沼の避難所で半年前に出会った小松さん一家はお元気だろうか？ 仮設住宅に入られたと聞いたが、83歳と高齢のしもよさんは？ 2歳だったひ孫は？ はたまた、「寿司道に生きる」と宣言していた松葉寿司の板長さんは？——10月中旬、大震災から7か月経った宮城県気仙沼市を訪ねた。きっと「明日への息吹き」を感じられるに違いないと、さる4月に縁のあった方々、さらに、造船技術者が「気仙沼は海の町。舟がなければ」と立ち上げたという“仮設造船所”を探訪した。（アイユ編集部・田中正人）

避難所から仮設住宅へ

小松しもよさんはお元気だった。

「あの位牌、おじいちゃんの位牌が海の中から戻ってきたんですよ。『じいちゃん、来たね！』って、もう泣けて泣けて」

「それからこれ、このアルバム。どの写真もほとんど濡れた跡がないでしょう？ これも出てきたんですよ！」

——私にいきさつを説明してくれるしもよさんの顔は、生気にあふれていた。

被災者約300人が生活していた気仙沼市立面瀬中学校体育館の避難所で、小松さんにお会いしてから半年。同中学のグラウンドに建てられた仮設住宅で、83歳のしもよさんから3歳になったひ孫の海斗ちゃんまで、一家6人の日々は、連なる2軒にあった。



「海から戻ってきた」アルバムを見せてくれた小松しもよさん



面瀬中学校の避難所での小松しもよさん（右）（4月11日）

照れくさそうだった。何よりだったのは、仮設住宅のざつと20世帯が、かつてのコミュニティの向こう三軒両隣のの人たちだったこと。ちよつと

「海から戻ってきた」位牌は、あの日、3月11日が命日だったしもよさんの亡夫のもの。アルバムは、しもよさんの孫娘の成人の記念品、分厚い豪華な装丁のものであった。震災から2か月余、海岸から2キロほど沖合で、津波に流され海に引き込まれて逆さまになっていた一家の家が見つかった。引き上げられた品々の中に、二つがあった。

「じいちゃんが、孫娘の大切なものを抱いて戻ってきてくれたんですよ——なんと鮮やかな言い回し！思いのたけの強さを感じさせられた。

仮設住宅は、細長く狭いが、二棟にそれぞれ親子3人ずつで住む。マット一枚の避難所での不自由な生活の後遺症か、しもよさんは膝を痛めたという。それでも、体育館でお会いたし時と比べると、すっかりふくよかになり健康そう。「ちよつと太ってしまった」と、

出かけても顔見知りに出会え、会話が弾むという。日常の心休まる一刻は、被災地全般が「震災後の幻滅期」といわれ、仮設住宅の孤独が危惧されている中、なにもものにも代えがたい。

しもよさんに話をお聞きしている最中、避難所当時とは一変して遅しくなった海斗ちゃんが話しかけてくれ、しもよさんの長男夫人、澄子さんには何かとお気遣いいただいた。澄子さんの夫と澄子さんの娘さんの夫、お二人にまで、外出先からわざわざ戻って顔を出していただいた。強く温かい一家の絆は、揺らいでいない。

「このあいだ、ボランティアの方にパーマをかけてもらったんですよ」髪に手をやるしもよさんの笑顔に見送られた。ご苦労は絶えないだろうが、どうかお元気で——。



松葉寿司は蘇った

「八合目まで来たんですよ！やっ」と！「あと二合ですよ二合！今年中には登って見せます！」

真新しい暖簾に包まれた新生、松葉寿司。板長・佐藤尚行さん（59）の言



新生・松葉寿司で佐藤さんの声が弾んでいた



「息吹いていた」松葉寿司の立札（4月11日）

葉が力強い。笑い顔にもけれんみがかかった。

昂ぶらないわけがない。あの日3月11日、気仙沼市内でも指折りだった老舗は、巨大津波に根こそぎ流された。それから半年、もがき苦しんだ末に再建、復興させた店なのだ。

振り返れば、「明日はどう生きようか」とため息ばかりつく日々だったという。好きな酒も喉を通らず、寝ようとしても、五感はおびえるばかり。小柄な身体が激ヤセし、体重が5キロも減った。考えるのは、「良からぬことばかり」だった……。

気仙沼は初めての私に、松葉寿司と

の縁ができたのは、取材で訪れた震災から1か月の4月11日。松崎尾崎地区の道路沿い、がれきの中でけなげな一輪の花のように「首」を出していた小さな立札と「出会った」こと。「松葉寿司 090 × × × × 6282」と書かれていた。

妙に忘れられなかった。立札が「へたらないよ！立ち上がるから見えてよ！」と語りかけているように思えてならなかった。5月初め、三陸の地元紙の広告記事をインターネットで見た。いわく……。

「当店も流出しましたが、寿司道にかける情熱、魂は失いませでした（略）生まれ変わろうと努力しています（略）再開まで今しばらくお時間をください（略）松葉寿司 板長 佐藤尚行」

「寿司道」とはいかに！すぐにも連絡したかったが、半年経つくらいまでは待とうと、9月初め、立札に電話した。見ず知らずで初めての私の問いなのに、弾んだ声が応えてくれた。「今月、ようやく再開できることになりました！」

実は、再建しようにも新たな土地もなく、途方に暮れるばかりの佐藤さんを救ったのは、45年来の友人の一言だったという。「自宅を改築すればいいじゃないか」——。

自宅は旧・松葉寿司から約2キロ。周りには田畑もあり、決して「商店街」じゃない。だが、言われてみれば「ゴルフブスの卵」。2階建ての1階は津波に襲われていたが、その1階を改装した。重厚感のあるカウンターに、お座敷も二卓ある。

「2重ローンを抱えちゃいましたけどね。なんとか10年でと、頑張りますよ！」
パートナーの妻、南美子さんには、近親者5人を津波で失った深い心の傷もある。でも、二人はにしつかりと声をそろえる。

「復興して『寿司道』を貫いて見せます！」



「仮設造船所」

気仙沼湾に面する松崎片浜地区。かつては水産工場群が林立していたに違いないのに、建屋の影さえない。どこまでもまっ平らのその地に、遠くからでもそれとわかる二棟の白い「仮設造船所」が並んでいた。造船所を営んでいた佐藤喜昭さん（63）が、同業者二人とオープンさせたものだ。

高さ約5m、広さ100㎡ほどの鉄骨・テント張り。主に全長7、8

の小型和船を修理するこの「造船所」は、佐藤さんが、岩手・大船渡の取引先の同業者の支援で7月初めに開設した。気仙沼の同業者仲間、近藤一良さん（72）、高城実さん（71）との3人で共同運営する。

3人はいずれも小型船舶の造船・船舶販売業を営んでいた。だがあの日、大津波で工場、事務所は跡かたもなく流された。一方で、ワカメやホタテなど海の幸の養殖業者たちから、震災で破損した舟を直してほしい、海に出たい、の声が増しに高まっていたという。

40年間、この地で和船の製造、販売を手掛け、熟練の技を持つ佐藤さんが、工場がなければ腕を撫すばかり。苦境を救ってくれたのが取引業者で、「仮設」を建てる場所も被災した水産工場が無償で貸してくれたという。

「海に生きてきた者は、海に出てこそ元気が出るんです。舟を直して、早く養殖をやりたいというみんなの声に背中を押されました」

私が訪ねた時、ざっと20隻もの強化プラスチック製の和船が、修理を待っていた。

「何もかも流されて、年も年だし……もう一度一からなんて、みんな絶望的



仮設造船所で佐藤さん（右）と、近藤、高城さん

になっていました」

悩みに悩んだ末ですと佐藤さんは振り返るが、3人ですでに20隻近くを修理、納船してきた。

「気仙沼は海の町、造船はなくてはならないんです。舟の修理で漁業者の手助けをしながら、自分も立て直していると思うています」

お暇しようとしたら、ちょうどクレーン車が修理を終えた舟を受け取りに来た。吊り上げられる舟を、佐藤さんは大事そうに手で支え、別れを惜しむかのように見つめていた。

東日本大震災特集

幼い兄弟が描いた3枚の絵と言葉

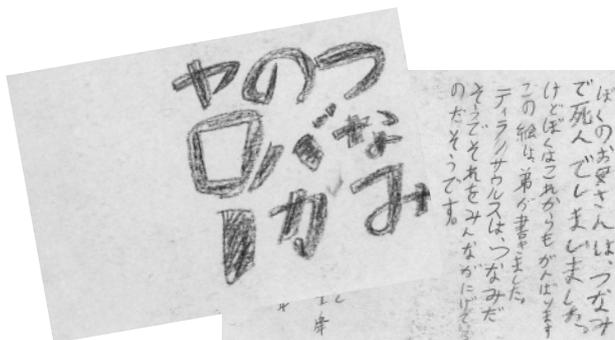
「どうやって（津波で母を亡くした）子どもたちに接したらいいかわからない中、子どもたちは絵と文章を書くことで、心の中の思いを一気に吐き出すことができた」と本当に感謝しております。復興には長い期間がかかると思いますが、変わらぬご支援をお願いいたします」

一片の「感想」が残されていた。当センターが10月3日から11月4日まで、センター併設の人権ライブラリーで開いた「被災地の子どもたちの紙芝居と絵、メッセージ展」でのアンケートにあった。出展されていた「石巻の小学6年と小学2年の兄弟が描いた絵とメッセージ」を観にきた兄弟の大叔母、横浜市に住む渡辺佳子さんからだった。

兄弟が絵と文を書いたきっかけは、宮城県石巻市を紙芝居公演して回った紙芝居師・金谷邦彦さんがふと声をかけ、画用紙を渡したことからだった。弟が一心不乱に描き、兄が裏に言葉を書きこんだ。

「兄弟の父親も、亡くなった母のことを口に出していいかわからず、苦しんでいたようでした。寄り添おうにも、どうすればいいかわからない、と言っていました。でも、絵と文章を描くことで、心の中にずっと渦巻いていた怒り、秘めていたいろいろな思いを一気に吐き出すことができたのだと思います。父親も、絵が代わりになってくれた、と感謝しておりました」

渡辺さんは、改めてお聞きした電話でそう話してくれた。



（当センターの人権ライブラリーでは、上記の絵やメッセージ、女子中学生たちが描いた震災紙芝居をパネル化して貸し出しております。お問い合わせは☎03-5777-1919まで。）

2011年を世界はどう記憶する？

3月11日に起きた東日本大震災は、世界と日本に大きな衝撃を与え、私たちは防災のあり方、エネルギー源としての原子力、復興の方向性など、多くを考えさせられました。被災された多くの方々の痛みを、私たちは決して忘れることはないでしょう。今後、新生、復興に向かって日本が新しい力を発揮していくことを、世界が熱く見守っています。

一方で、2011年は「激動の年」としても記憶されるのではないのでしょうか。

昨年末にチュニジアで始まった中東、北アフリカの民主化運動は、今年に入ってエジプト、リビアへと広がり、そのうねりはさらにシリア、イエメン、バーレーンにまで及んでいます。多国籍軍の軍事行動を可能にし、リビア国民の闘いを支えた国連の安全保障理事会決議「1973」(2011年)は、「保護する責任」という新しい概念を実行した歴史的な決議となりました。

忘れてはならないのが、一連の運動の中核をなした中東、北アフリカの若者の力です。アラブ世界では2億5千万人の60パーセントが25歳以下。そして2010年時点で、その若者の23パーセントが失業していたとされています。自分たちの将来に深刻な不安を感じ、それが怒り、行動へとつながり、その結果、過去数十年続いた独裁政権が次々と倒されていきました。始まったばかりの民主化運動を、国連をはじめ世界が全面的に支援していく必

要があります。

将来への不安を感じているのは、アラブの若者ばかりではありません。ヨーロッパやアメリカで広がった「占拠」運動は、将来の展望が見えないことに不満を持った若者たちが変化を求めて動き出したものです。

国連もこれまでに、貧困撲滅を目指して多くの変化を促してきました。たとえば、開発の視点を世界経済に組み入れ、地球を守りながら進める持続可能な成長です。^{バンギムン}潘基文事務総長は、世界の指導者たちが集うダボス・

フォーラムやG8、G20などの場で、一貫して次のように唱えています。「消費一辺倒の時代は終わり、今こそ、持続可能な世界について革命を起こす時だ」「グリーン経済を構築しよう」。

これらのメッセージは、来年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開か

れる国連会議Rio+20の中核となる課題にもなっています。

激動の2011年。地球市民である私たちに、多くの課題を改めて考えさせた一年といえるのではないのでしょうか。国連はそれぞれの課題に挑戦していきますが、日本をはじめ、すべての地球市民の支持が、私たちのエネルギー源となります。

国連だより

@国際連合広報センター

山下真理

(国際連合広報センター所長)



放射線被ばくについての 風評被害に関する緊急メッセージ

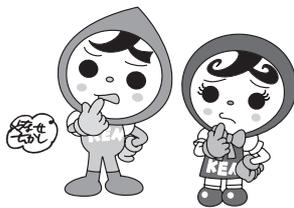
平成23年4月21日
法務省人権擁護局

新聞報道等によりますと、原発事故のあった福島県からの避難者がホテルで宿泊を拒否されたり、ガソリンの給油を拒否されるといった事案のほか、小学生が避難先の小学校でいじめられるなどの事案があったとされております。

放射能の影響を心配するあまりなのかもしれませんが、根拠のない思い込みや偏見で差別することは人権侵害につながります。

震災に遭った人が、避難先で差別を受けたら、どんな気持ちになるでしょうか。

相手の気持ちを考え、やさしさを忘れず、みんなでこの困難を乗り越えていきましょう。



人権イメージキャラクター
人KENまもる君 人KENあゆみちゃん

法務省ホームページ http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00008.html

1月・2月の人権啓発行事予定

都道府県、政令市、法務局、国連関連機関等から寄せられた行事予定、および当センターの行事予定です。くわしくは各連絡先まで。*手話通訳、要約筆記、託児サービスは事前に予約が必要な場合があります。*申込締切が過ぎたものも掲載しています。
*敬称略【行事予定は、当センターのホームページ（<http://www.jinken.or.jp/>）の「全国の人権啓発行事」コーナーにも掲載しています】

▽1月15日(日)13時～15時30分(予定)▽会場 生涯学習センター(平川市)(予定)▽主催・連絡先 青森県男女共同参画センター ☎017(732)1085 *託児あり

●平成23年 人権啓発活動市町村委託事業「性同一性障害」の講演会▽2月11日(土)14時～15時30分▽会場 柴田町榎木生涯学習センター▽主催 柴田宮町、大河原人権啓発活動地域ネットワーク協議会▽連絡先 柴田町町民環境課 ☎0224(55)2113 ■要整理券

●人権講演会 in 栃木 講演「ちがいを認める時が自分を高められる時」(講師)菊地幸夫・弁護士、人権啓発パネルポスター展示、人権啓発資料の配布▽1月27日(金)14時～15時45分▽会場 栃木市栃木文

愛知
●第39回「人権を理解する作品コンクール」表彰式及び入賞作品展示会 表彰式:2月4日(土)9時30分～10時、展示会:2月4日(土)6日(月)10時～18時30分(6日(月)は17時までの予定)▽会場 名鉄百貨店本館屋上(名古屋市中区)▽主催 名古屋法務局、愛知県人権擁護委員連合会、中日新聞社、愛知人権啓発

静岡
●平成23年度 静岡人権啓発講演会「私の役者人生」家族の愛に支えられ」(講師)笹野高史▽2月8日(火)13時30分～15時▽会場 グランシップ中ホール(静岡市)▽主催 静岡地域人権啓発活動ネットワーク協議会▽連絡先 静岡市福祉総務課 ☎054(221)1370 ■要申込(☎より受付) *手話通訳あり

神奈川
●川崎市人権問題企業研修会「企業のCSR(社会的責任)と人権」人の多様性に配慮した職場づくり」(講師)田村太郎・ダイバーシティイノベーション研究所代表理事▽1月20日(金)18時～20時▽会場 ラゾーナ川崎プラザソル▽主催・連絡先 川崎市人権・男女共同参画室 ☎044(200)2359 ■要申込

●人権教育指導者研修会 基調講演(講師)バイマヤンジン(チベット声楽家)、分科会▽1月17日(火)10時～16時10分▽会場 静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」▽主催 連絡先 県教育委員会人権教育推進室 ☎054(221)3133 ■要申込(締切)

●企業と人権セミナー「パワー・ハラスメントの原因と背景、その対処法、最新の判例と実務法務を踏まえて」▽1月31日(火)14時～16時▽会場 アクトシティ浜松コンgresセンター▽主催 関東経済産業局▽連絡先 県人権同和対策室 ☎054(221)3330 ■要申込 *要約筆記あり

●生涯を通じた女性の健康を考える講座「女性対象」「いきいきと年齢をかさねるために。―40歳から知っておきたい女性ホルモンの力―」▽1月28日(土)13時30分～15時30分▽会場 パルティとちぎ男女共同参画センター(宇都宮市)▽主催 連絡先 〃とちぎ男女共同参画センター ☎028(665)8323 ■要申込(締切) *託児あり

化会館▽主催 県、栃木市▽連絡先 県人権施策推進課 ☎028(623)3027 ■要申込(締切) *手話通訳・要約筆記あり

三重
●第12回みえ人権フォーラム 人権講演会(講師)八名信夫・俳優、子ども向け人形劇「ブレイメンのおんがくたい」「はらべこべっこん」、各種団体によるブース展示、農業高校の物産展、人権クイズラリー、防災啓発車による地震体験▽1月22日(日)10時

愛知
活動ネットワーク協議会▽連絡先 名古屋法務局人権擁護部 ☎052(952)8111

人権ライブラリー イベント

参加無料

第2回読み語り

2011年12月22日(木)14:00～
「志茂田景樹隊長の
よい子に読み聞かせ隊」
志茂田景樹さんが著作絵本を
読みます!



第3回読み語り

2012年2月29日(水)18:30～20:00
「大人のための絵本セラピー
職場内コミュニケーション編」
岡田達信さん (絵本セラピスト協会代表・絵本のソムリエ)
読む本:「わたしとなかよし」
「どんなかんじかな」
「まめうしくんとこんには」



【参加申込方法】 次の各項目をご記入の上、EメールかFAXで。①「第●回読み語り・参加希望」②所属③名前(参加する方全員の名前を記入してください)④電話番号 ⑤FAX番号 ⑥Eメールアドレス
【問い合わせ先】 (財)人権教育啓発推進センター 人権ライブラリー
TEL 03-5777-1919 / FAX 03-5777-1954 / Eメール library@jinken.or.jp

テムズの 岸辺から

トルコ地震で邦人NGO男性死亡。 日本の支援に高い評価

トルコ東部ワンの大地震の被災者支援にあたっていた邦人男性が、余震に巻き込まれ亡くなった。日本を代表する民間活動団体(NGO)「難民を助ける会」所属の宮崎淳さん。地震が10月23日に発生してまもなく現地に入り、被災者に物資を支給していた。現地時間の11月9日夜、余震で宿泊していたホテルが倒壊。がれきの下から救出されたが、搬送された病院で亡くなった。

宮崎さんは、英国留学、フィリピンを支援するNGO勤務や大分市職員などを経て、今年6月に「難民を助ける会」に応募した。志望の動機には、東日本大震災で先進国だけでなく途上国からも支援が寄せられたのを見て、「世界各地で困難な状況にある人々を支援する活動に対する思いがさらに強くなった」と記されていた。

9月に正規職員になり、総務を担当した。同会の長有紀枝理事長によると、いつもにこにこ

して、あつという間に同会のムードメーカーになったという。

自分より若い人がどんどん外国の支援の現場に出る中、出番が回って来ないことを残念がり、「焦る。でも、いつか来るその日のために、全力で今の総務の仕事をしなくちゃ」と話していた。それだけに、宮崎さんにとって初の海外での活動となるトルコへの派遣が決まり、武者震いしていたそうだ。真面目な人で、出発する間際まで、総務の仕事である職員の残業計算をしていたという。

トルコに着いてからはすぐ、全力での活動開始になった。人なつっこい笑顔と誠実な人柄で、すぐに被災地の子どもたちの人気者になった。余震に巻き込まれた時は、もう夜9時だったが、パソコンに向かって同会への報告書を書いていたという。

世界の被災地の現場で、当該国や国連機関関係者から日本の民間活動団体(NGO)への好意的な評価を耳にする。共通するのは、とにかく真摯に仕事に取り組み、信頼できるということだ。宮崎さんも、間違いなくそんな一人だったのである。

享年41歳。ご冥福をお祈りします。

(ロンドン駐在ジャーナリスト 大内 佐紀)

大阪

- 不妊に悩む女性のためのサポート・グループ「子どものいない人生のこと話してみませんか」
「テーマが自分の問題と感ずる女性対象」(講師)金美江・助産師、矢野恵子・助産師▽1月21日(土)3月17日(土)のうち全7回の土曜 10時〜12時▽会場「ドーンセンター」(大阪市)▽主催「府▽連絡先」(財)大阪府男女共同参画推進財団☎06(6910)8615 ■要申込
- 平成23年度「入植フォトコンテスト」入選作品展
示会「ミニギャラリー」▽2月12日(日)まで▽会場「大阪市役所ほか市内6か所」▽主催「大阪市▽連絡先」大阪府人権啓発・相談センター☎06(6533)7631
- 「さかい男女共同参画週間」第16回さかい男女共同参画週間 オープニング記念講演、市民による男女共同参画の学習グループ講座▽1月21日(土)28日(土)▽会場「サンスクエア堺ほか▽

京都

- 平成23年度「KYOのあけぼの大学」基礎講座「府内在住・通学・通勤者対象」「災害と女性」(講師)正井礼子(ワイメンズネット・こへ代表)(予定)▽1月29日(日)13時30分〜15時▽会場「宮津市中央公民館」▽主催「府、京都府男女共同参画センター、宮津市▽連絡先」宮津市人権啓発係☎0772(22)2121 *手話通訳・託児あり
- 和い輪い人権ワークショップ第4回「親しき中にも差別あり?」家庭の中の人権問題」(講師)渡辺毅・毅雨企画室代表▽2月17日(金)13時30分〜16時30分▽会場「京都市男女共同参画センターウイングス」京都市主催・連絡先「京都市人権文化推進課☎075(366)0322 ■要申込(締切あり)

三重

- 30分〜16時▽会場「三重県人権センター(津市)▽主催「県▽連絡先」三重県人権センター☎059(233)5501 *手話通訳あり
- 「企業向け人権啓発講座」第8回「京都市内に事業所を持つ企業対象」「チャレンジの社会参画を促進する竹中ナミさんと考えよう!」各々が力を発揮し、支え合って構築する「ユニバーサル社会の実現に向けて」(講師)竹中ナミ(社会福祉法人プロップ・ステーション理事長、NHK経営委員)▽1月26日(休)14時30分〜17時▽会場「京都御池創生館」▽主催・連絡先「京都市人権文化推進課☎075(366)0322 ■要申込(締切あり)

島根

●男女共同参画テーマ別お届け講座 講義&ワーク「よりよい人間関係をつくるコミュニケーション」(仮) 講師 市場恵子(社会心理学講師、カウンセ

和歌山

●人権を考える公開講座 ライフスタイルを考える人権セミナー「延長の命燃え尽きるまで生涯挑戦」二分脊椎症とともに」講師 神原史直▽1月21日(土)14時～15時30分▽会場 和歌山県立情報交流センターBig-u(田辺市)▽主催 県、財)和歌山県人権啓発センター▽連絡先 (財)和歌山県人権啓発センター ☎073(435)5420

奈良

●女性の素敵な生き方セミナー「男性が「自分らしく」生きるとは？がんばらない生き方って？」▽2月25日(土)12時▽会場 主催 連絡先 奈良県女性センター(奈良市) ☎0742(27)2300 要申込 *託児あり

兵庫

●命の尊さと震災の教訓を語り継ぐ子どもたちのメッセージ運動展 ▽1月13日(金)～22日(日)10時～18時▽会場 神戸市役所市民ギャラリー▽主催 連絡先 神戸市人権推進課 ☎078(322)5234

●ふれあい人権ひろば ミニステージ、人権啓発ポスター・標語優秀作品展示、人権啓発メッセージ・エピソード優秀作品表彰式ほか▽2月18日(土)10時～16時▽会場 イオンモール橿原アルルサンシャインコート▽連絡先 県人権施策課 ☎0742(27)8719 *手話通訳あり

●子どもたちの3・11ニセフ東日本大震災報告写真展 ▽2月14日(火)～26日(日)9時～19時▽会場 大阪府立中央図書館(東大阪市)▽主催 連絡先 大阪ユニセフ協会 ☎06(6645)5123

大阪

●「ヒューマニティ大阪」演劇のつどい」(大阪市民劇団「かけはし座」定期公演) ▽2月5日(日)▽会場 クレオ大阪中央(大阪市)▽主催 大阪市、人権啓発活動大阪地域ネットワーク協議会▽連絡先 大阪市総合コールセンター ☎06(430)7285 要申込(締切) *要約筆記あり

主催 連絡先 堺市男女共同参画推進課 ☎072(228)7408 要申込 *手話通訳 要約筆記あり(2のみ)、託児あり

福岡

●第32回特別展 ①講演会「絆が人を生かすから」ホームレス支援から見た無縁・日本」講師 奥田知志・NPO法人北九州ホームレス支援機構理事長

②県民講座 第一部「新しい世界への挑戦」職業訓練で自立の機会を」講師 花田貴恵(国立県営福岡障害者職業能力開発校修了生、岸川正(サンアクトAOTO、国立県営福岡障害者職業能力開発校修了生)、第二部「障がい(児)者の人権(東日本大震災に想う)」講師 大熊猛(社会福祉法人こぐま

高知

●男女共同参画基礎講座「メディアリテラシー」①2月5日(日)「ゲーム・ケータイ・インターネット」子どもとおとな、リスクとメリット」講師 山中千枝子・千斗枝グローバル教育研究所 ②2月26日(日)「新聞の読み方」講師 細見三英子・ジャーナリスト▽①②とも13時30分～16時30分▽会場 高知男女共同参画センター▽主催 財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団▽連絡先 高知男女共同参画センター ☎088(873)9100 *託児あり

●ソレまつり2012 「ソレでつなぐ地域のきずな」記念講演会「輝いて生きる」挑戦に遅すぎることはない」講師 吉永みち子・ノンフィクション作家、その他イベント▽1月28日(土)9時30分～16時30分(29日は16時まで)▽会場 高知男女共同参画センター「ソレ」▽主催 連絡先 財団法人こうち男女共同参画社会づくり財団 ☎088(873)9100 記念講演会は要申込 *要約筆記・託児あり

香川

●かがわ特別支援教育県民フォーラム 講演「みんなちがって、みんないい」講師 乙武洋匡・作家、特別支援学校の卒業生・保護者の体験発表・作品展、発達障害のある子どもの保護者の体験発表▽1月14日(土)13時～▽会場 アルファあなぷきホール(高松市)▽主催 連絡先 県教育委員会特別支援教育課 ☎087(832)3756 要申込(締切) *手話通訳あり

鳥根

ラー)▽1月29日(日)10時～12時 柿木基幹集落センター(吉賀町) ⑬13時30分～15時30分 六日市基幹集落センター▽主催 県▽連絡先 (財)しまね女性センター ☎0854(84)5514 要申込 *託児あり

福祉会(創始者)理事長、久留米信愛女学院短期大学非常勤講師)▽1月28日(土)14時～15時30分 ⑭1月21日(土)13時～16時20分▽会場 クロバードラザ▽主催 県、(公財)福岡県人権啓発情報センター▽連絡先 (公財)福岡県人権啓発情報センター ☎092(584)1271

●平成23年度 人権フェスティバル 人権メッセージ優秀作品表彰式、ココロコンサート(JOY倶楽部)、講演会 講師 米良美一▽1月29日(日)13時～16時▽会場 熊本テルサ▽主催 県、熊本県人権啓発推進協議会、熊本県人権啓発活動ネットワーク協議会▽連絡先 県人権同和政策課 ☎096(333)2299 要申込 *手話通訳・要約筆記・託児あり

参加者募集中

平成23年度 (財)人権教育啓発推進センター「会員特別セミナー」を開催します!

「会員交流の集い」を「会員特別セミナー」に改称し、内容も一新! 他では得られない人権情報を提供します。ご要望の多かった研修の場としても活用できます。会員相互の交流と情報交換ができる「意見交換会」(参加は任意)も設けていますので、ぜひご参加ください。

日時:平成24年2月17日(金)13:00~18:00(講演会は16:20まで)
会場:人権ライブラリー-多目的スペース(当センター併設)

■講演会I「東日本大震災における子ども支援」
森田明美(東洋大学 社会学部社会福祉学 教授)

■講演会II「取材から見てきたこの国の人権」
藪本雅子(フリーアナウンサー)

■意見交換会

日時:平成24年2月24日(金)13:00~18:00(講演会は16:20まで)
会場:エル・おおさか(府立労働センター)

■講演会I「組織の社会的責任(SR)と人権 -ISO26000をどう活かすか」
横田洋三((財)人権教育啓発推進センター 理事長)

■講演会II「『コンパシット』で活き活き人権教育を」
福田弘(筑波大学名誉教授)

■意見交換会

人権ライブラリー 多目的スペース

11月のご利用

東京人権啓発企業連絡会(GCC)JN
社内浸透研究分科会 東京社会福祉士
会(NPO)法人シエントラルハートプロ
ジェクト、芝地区高齢者相談センター
など計12団体・17件

無料の貸し会議室です。人権教育関係の打ち合わせ、サークル等でご利用ください。お問い合わせは人権ライブラリーまで。TEL03-5777-1919 / Eメール library@jinken.or.jp

●企画展示 「人権啓発グッズ展」平成23年度人権啓発資料法務大臣表彰より▽1月10日(火)～2月17日(金)9時30分～17時30分(土・日・祝日休館)▽会場 主催 連絡先 人権ライブラリー ☎03(5777)1919

●定期上映会 「サラリーマンライフ」ろう者と聴者が共に働く職場づくり」「働く人の被災後の心のケア1被災者編」▽1月18日(水)14時～15時40分▽会場 主催 連絡先 人権ライブラリー ☎03(5777)1919

●企画展示 「人権啓発グッズ展」平成23年度人権啓発資料法務大臣表彰より▽1月10日(火)～2月17日(金)9時30分～17時30分(土・日・祝日休館)▽会場 主催 連絡先 人権ライブラリー ☎03(5777)1919

●定期上映会 「サラリーマンライフ」ろう者と聴者が共に働く職場づくり」「働く人の被災後の心のケア1被災者編」▽1月18日(水)14時～15時40分▽会場 主催 連絡先 人権ライブラリー ☎03(5777)1919

知っていますか? の答え

【ポジティブ・アクションのシンボルマーク】 昨年、「女性の活躍推進協議会」が、一般募集した作品の中から決定した。男女の均等な機会および待遇を実質的に確保するための自主的かつ積極的な取り組みを企業等に呼びかけている。



「アイユ」についてのご意見、ご感想がありましたら、FAX(03-5777-1803)でお寄せください。

(財)人権教育啓発推進センターは、次代を担う青少年等に対する同和問題など人権に関する総合的な教育・啓発及び広報を行うとともに、人権に関する教育・啓発について調査、研究、情報収集・提供及び国際的連携を図り、あわせて、人権に関する相談を実施し、基本的な人権の擁護に資することを目的としています。

参加者募集中

芝大門人権講座

参加費無料 先着40人

■人身取引～いま、日本で何が起きているのか！～

講師 吉田 容子さん(弁護士、人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)共同代表)
日時 2012(平成24)年1月27日(金) 18:30~20:30
会場 人権ライブラリー・多目的スペース(当センター併設)



【参加申込方法】

次の項目をご記入の上、EメールかFAXで。
①講座名 ②名前 ③所属 ④電話番号 ⑤FAX番号
⑥Eメールアドレス
*お一人様一通でお申し込みください。
*手話通訳をご希望の方は、その旨を、講座実施日2週間前までにご連絡ください。ご用意します。

■育つ人・育てる人の心 ~再犯防止の鍵は、働いて社会とつながること~

講師 中井 政嗣さん(千房株式会社代表取締役)
*同社は刑を終えて出所した人を雇用しています。
日時 2012(平成24)年2月21日(火) 18:30~20:30
会場 人権ライブラリー・多目的スペース(当センター併設)



【問い合わせ先】

TEL 03-5777-1918 / FAX 03-5777-1803
Eメール shibajin2011@jinken.or.jp
ホームページ http://www.jinken.or.jp/

■性的指向と人権 2012(平成24)年3月7日(水) ■ハンセン病資料館見学 2012(平成24)年4月6日(金)



人権イメージキャラクター
人KENまほろ君

1/22(日) 人権シンポジウム in 大阪

入場無料

テーマ「震災と人権～私たちに出来ること～」

時間:14:00~16:45 会場:ザ・フェニックスホール(大阪市北区西天満4-15-10)
主催:法務省、財団法人人権教育啓発推進センター 後援:大阪府、大阪市

- ◆被災地の女子中学生から託された紙芝居の実演 金谷邦彦さん(紙芝居師)
- ◆シンポジウム J.A.T.D.にしゃんたさん(羽衣国際大学現代社会学部放送メディア映像学科准教授)
森川すいめいさん(世界の医療団東京プロジェクト・東日本大震災被災地プロジェクト/代表医師)
田中正人(財団法人人権教育啓発推進センター理事)
コーディネーター:横田洋三(財団法人人権教育啓発推進センター理事長)

【お申込・お問い合わせ先】財団法人人権教育啓発推進センター「人権シンポジウムin大阪」事務局
TEL 03-5777-1918 / FAX 03-5777-1803 / Eメール event2011@jinken.or.jp



人権イメージキャラクター
人KENあゆみちゃん

人権啓発冊子 2012年版がぞくぞく頒布開始!

NEW! 「人権ア・ラ・カルト 2012年版」

「人権教育・啓発に関する基本計画」で取り上げられているさまざまな人権課題をコンパクトにまとめています。巻末には、国連の人権関係条約年表や「国際年・国際の10年」の一覧表を付記しています。
A5判/28ページ/カラー 価格 一般:220円(税込/送料別) 会員:176円(税込/送料別)

NEW! 「心ひらこう 2012年版」

同和問題について、初めて学ぶ方にもわかりやすくまとめたパンフレットです。「同和問題とはなにか」、「国の取り組み」、「同和問題の現状や課題」、「今後の方向性について」解説しています。巻末には、同和对策関係年表を付記しています。
A5判/28ページ/カラー 価格 一般:220円(税込/送料別) 会員:176円(税込/送料別)

NEW! 「人権について考える 2012年版」

「世界人権宣言の採択」から、「日本国憲法が掲げる基本的人権」、「現代日本の人権状況」などをわかりやすく解説しています。巻末には、国連と日本国内の人権関連年表を付記しています。
A4判/24ページ/カラー 価格 一般:250円(税込/送料別) 会員:200円(税込/送料別)

人権センター 販売

検索

【お問い合わせ先】

販売担当 TEL 03-5777-1916 / FAX 03-5777-1803 / Eメール sales@jinken.or.jp



アイユ(ALLYU)とは ヘルシーの先住民族の言葉・ケチュア語で「人々の集まり」を意味しています

発行人 横田洋三
〒105-0012 東京都港区芝大門2-1-10
KDX芝大門ビル4F
TEL 03-5777-1802(代) FAX 03-5777-1803
ホームページ http://www.jinken.or.jp

アイユ 12月号通巻247号 定価200円(税込)
2011年(平成23年)12月15日発行
発行 財団法人人権教育啓発推進センター

人権ライブラリー・インフォメーション

図書館業務停止のお知らせ

下記の期間、蔵書点検のため、返却を除くすべての業務を停止します。ご理解、ご協力をお願いいたします。
業務停止期間:12月21日(水)~12月28日(水) ※2012年は1月4日(水)から再開します。

【上映会】 1月18日(水) 14:00~15:40(開場13:30) 入場無料、申込不要、当日先着順
上映作品:「サラリーマンライフ ろう者と聴者が共に働く職場づくり」58分/2008年
「働く人の被災後の心のケア1 被災者編」30分/2011年

【企画展示】 11月17日(木)~12月22日(木) 9:30~17:30(土・日・祝日休館) 入場無料
展示作品:「アンネ・フランクと希望のバラ~平和をつくるのはみんなの心~」
(パネル提供:特定非営利活動法人ホロコースト教育資料センター)
※展示、上映内容は変更する場合があります。

場所:当センター併設(最寄駅:JR・東京モノレール「浜松町」駅、都営三田線「芝公園」駅、都営大江戸線「浅草線「大門」駅。各出口から徒歩5~8分)
問い合わせ先:TEL 03-5777-1919/FAX 03-5777-1954/ホームページ http://www.jinken-library.jp/
図書・ビデオ・展示パネルなどの貸し出しも行っていきます。どうぞご利用ください。

法務省	「全国共通 人権相談ダイヤル」	0570-003-110	(ゼロゼロみんなのひやくとおぼん)
法務省	「女性の人権ホットライン」	0570-070-810	(ゼロナナゼロのハートライン)
法務省	「子どもの人権110番」	0120-007-110	(せろせろなのひやくとおぼん)
文部科学省	「24時間いじめ相談ダイヤル」	0570-0-78310	(なやみ言おう)